

教師に必要なもの

1. 教育を考える一言

「教師は人を思う気持ちが一番大切。」

2. 背景

この言葉は、東日本大震災において避難をしている先生が言っていた言葉です。先生は震災当初、避難所の設営や運営に参加していたそうです。その避難所は、その先生が務めている学校ではなかったものの、避難所運営の中心として働いていたそうです。被災した学校は避難所としての役割を果たすのみならず、地震直後の地域支援活動拠点として教職員が本来の任務を超えて奮闘したことが知られています。

この言葉を聞いた当時の私は、教育実習を終え教師という仕事には何が必要なのか考えていました。私はその先生に「なぜ自分の力で別の場所に行くことができたのに避難所の運営に参加したんですか？」と尋ねたところ、答えと一緒にこの言葉が返ってきました。

3. 考察

東日本大震災では、避難所に指定されていない学校にも避難者が殺到し、地域住民の生活支援に大きく貢献しました。震災直後、避難所として開放した学校で避難所を運営していたのは学校の教職員です。福島県で教員をしている私の父親も一度家に帰ってきて、学校が避難所になっているためすぐに学校に戻って行ったそうです。先生が言っていたように、教師という仕事は人を思う気持ちが大切で、その気持ちが強い人が多いと思います。先生は自分から進んで避難所の運営に携わっていたそうです。このように先生を動かしたものはまさしく「人を思う気持ち」です。

私は教育実習で子ども達のために一生懸命働く先生たちを目の当たりにしました。どの先生方も一生懸命子どもと向き合い、子どものために働いていました。私は、ここで子どもを思う先生方の気持ちの大きさ、強さを感じました。しかし、震災を体験した先生の話聞き子どもだけでなく人を思う気持ちが大切なのではないかと感じています。

学校と地域社会は切っても切り離せない存在です。学校と家庭、地域の連携が叫ばれている中で、子どもを思う気持ちだけで教師が務まるとは思えません。子どもの周りには保護者がいて、様々な大人たちがいます。その中で子どもだけを見ては子どもにとって良い教育を行うことは難しいのではないかと思います。教師は家庭や地域の大人にも目を向けることが大切だと感じます。

これらのことから、教師が家庭や地域と積極的に関わっていけば、子どもの成長に繋がるのではないかと思います。私自身これから教師として働く中で、「人を思う気持ち」を大切に、家庭や地域とも深く関わっていけるような教師になりたいです。

引用文献情報

水原克敏・関内隆 『今を生きる－東日本大震災から明日へ！復興と再生への提言<2> 教育と文化』 東北大学出版会、2012